



HIGASHIKAWA
SHITARA-DAM

設楽ダムだより

第158号

工事現場特集

2023. 11



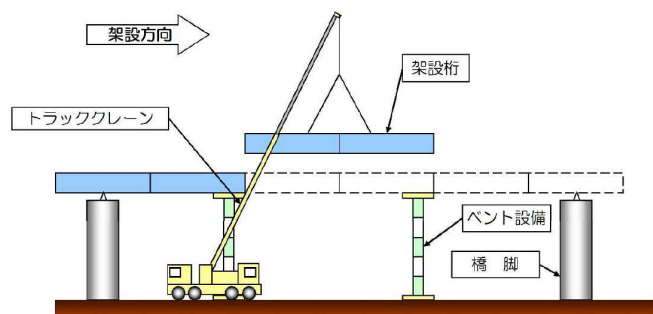
付替国道257号
添沢橋
特集

設楽ダム建設に伴って付け替える道路には37の橋が架かります。今回は、多くの方に長く愛された添沢温泉のそばで付替国道257号の「添沢橋」の橋桁^{はしげた}を架ける工事を進めている日立造船株式会社の柴田啓吾さんと野村太郎さんに話を伺いました。



－ 現道の国道257号を通行していると巨大なオレンジ色の設備がとても気になります。どんな工事をしているか教えてください。

私たちは、橋桁を架ける工事をしています。オレンジ色の設備はベント設備と呼ばれるもので、仮の橋脚となるものです。添沢橋には6つの橋脚がありますが、その間にベント設備を設置して脚を増やし、その上にクレーンで吊り上げた橋桁のブロックを設置していくという、“クレーンベント工法”と呼ばれる工法で施工しています。1つあたり長さ8～9 m程度のブロックを、29ブロック×5列架設します。ちなみにベント設備の色は会社によって様々ですが、日立造船はオレンジ色なんです。



クレーンベント工法のイメージ



現場代理人の野村さん(左)と監理技術者の柴田さん(右)



オレンジ色の脚がベント設備

－ 添沢橋はメタル(鋼)の橋ですが、その特徴と工事の手順について教えてください。

メタル(鋼)でつくられる橋を鋼橋^{こうきょう}と言いますが、一般的に鋼橋はコンクリート橋と比べて軽くて強いという特徴があるとされています。また工場で部材の製作を行うのも特徴です。

全体の手順としては、まずは設計図等の確認や修正を行います。そしてその図面を基に、広島県尾道市の向島にある私たちの工場^{むかいしま}で部材を製作し、実際に組み立てて確認を行います。その後、現場へと輸送し、架設していくという手順です。



向島工場での仮組み立ての様子



大型クレーンによる橋桁の架設の様子

－ 現在の工事の進捗と今後の工程について教えてください。

クレーンを使用して橋桁を架設する作業は10月に完了しました。11月から連結部のボルトの締め付けを行い、最後に塗装を行います。来年2月中には私たちの工事は完了する予定です。

添沢橋は長さ244m、地面から一番高いところで約36mの高さがある大きな橋ですが、橋の完成形は設計値に対してミリ単位の精度が求められます。例えば橋脚の真上の部分の高さは±5mmのみ許容されるという世界なんです。温度による伸び縮みなども考慮しながら施工し、完成させていきます。

－ところで、会社名は日立造船ですが、船ではなく橋をつくっているんですね。

会社名に“造船”が入っていますが、実は造船事業を手がけてはいません。現在は環境関係のプラントや橋梁、水門、煙突といった社会インフラの事業などを行っています。会社名についてですが、実は来年の10月から「カナデビア*」へと変更されるんです。来年の今頃には新しい会社名となっていますのでよろしくお願いします。

*“奏でる”（日本語）と“Via”（Way/道・方法という意味のラテン語）による造語



田口側から川向方面を望む



工事中の添沢橋の全景。手前の道路は現道の国道257号。（令和5年10月6日撮影）

付替県道設楽根羽線の一部暫定供用を開始しました。

令和5年10月27日に、国道257号との接続部から町道小松柿平線までのおよそ700mの区間で付替県道設楽根羽線の暫定供用を開始しました。

供用開始当日は走り初めが行われ、記念すべき第1号の通行車両には「とましーなちゃん」が同乗し、お集まりいただいた皆さまからの拍手で見送られながら新しい道を走り抜けていきました。



付替県道瀬戸設楽線日掛トンネルが貫通しました。

付替県道瀬戸設楽線の延長93mの日掛トンネルが令和5年10月23日に貫通しました。付替道路工事では7つのトンネルをつくりませんが、日掛トンネルは、昨年12月に貫通した大名倉トンネル、今年7月に貫通したシウキトンネルに続いて5番目の貫通となります。今後も引き続き、付替道路事業の進捗を図ってまいります。



設楽ダム工事事務所では、ダム建設事業の円滑な推進及び地域の皆様の安全な生活の確保を目的として、令和元年に暴力団等排除対策協議会を立ち上げ、暴力団等の排除及び不当要求等の防止に取り組んでいます。その活動に対し、令和5年10月17日開催の「安全なまちづくり愛知県民大会」において愛知県知事より表彰されました。

今後も安全なまちづくりの一助となるよう活動を続けてまいります。

